２０２２年１１月２６日（土）第３５回学習会まとめ

提案①

「道徳科における個別最適な学び　協働的な学びの実現を目指して」

柿沼　寿和先生（大和市立大和東小学校　教諭）

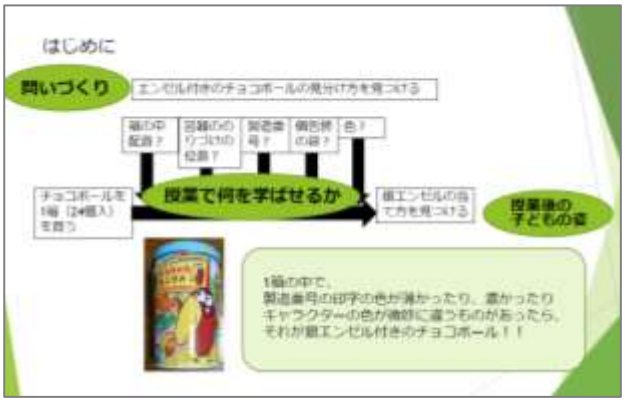
○あたりつきのお菓子の箱の見分け方

・「問いづくり」→つまり授業で達成させたい目標をもたせること

・そのために教師はどんな手立てを講じればよいか考えること

・授業を通しての子どもの姿が変容すること。目標の達成のプロセスは授業づくりでも同様であると言える。

・今回は「子どもの学びを意識した授業づくり」をテーマにしている。



○パッケージ型ユニットについて

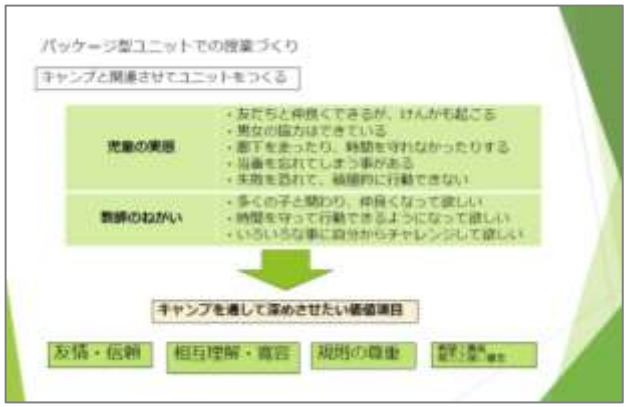
・「重層型」「連結型」「複合型」といった種類がある。

・学びの深まり、課題意識の継続、道徳的な成長といった効果が見られる。

・本提案ではキャンプという行事（材）をもとにした連結型ユニットを考えた。

・キャンプに関係する内容項目も子どもたちと考えた。

・キャンプ実行委員によるテーマ設定（どうしたら充実したキャンプになるか)、教師の願い、自分たちにつく力について話し合いを行った。



○パッケージ内の授業の紹介

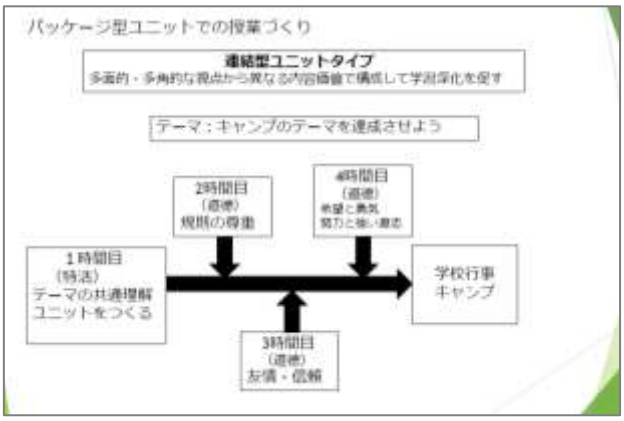
１時間目「公園のきまりを守る」⇒ルールの大切さの確認

２時間目「ドッジボール対決」⇒本当の友情についての確認

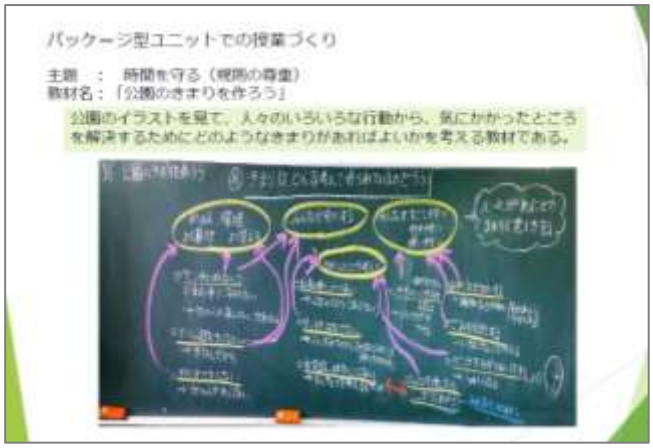
３時間目「世界最強の車いすテニスプレイヤー」⇒あきらめないこと、努力することの大切さの確認

↓

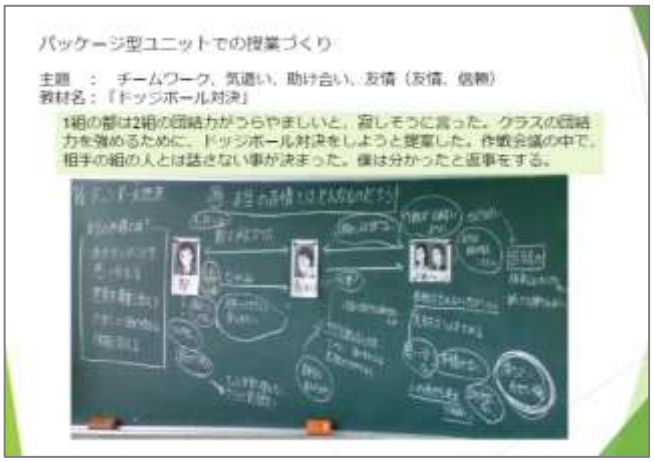
キャンプを成功させるために意識していきたい内容項目を決定。



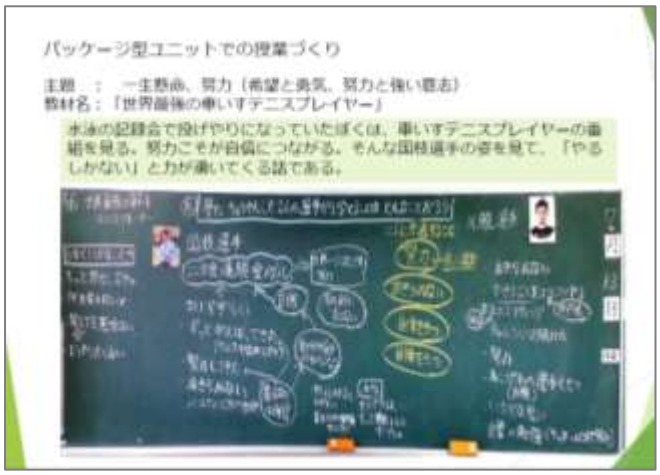
１時間目



２時間目



３時間目



※３時間目は「夢の教室」…５年生以上の児童を対象にゲストティーチャーの体験談などの講話を聴く大和市の小学校の取り組みである。

本時では教科書の国枝選手と夢の教室ゲストティーチャーの川股選手を比較し二人のアスリートとしての共通点について考えた。

○子どもの振り返り

・テーマは達成できたと考える子どもの意見
　→道徳の授業がキャンプを成功させるために役立っていたと実感している。

・テーマは達成できなかったと考える子どもの意見
　→この場面でもっと協力できていればなど、自分たちの目指す姿、目標が明確になった結果出てきた自己内評価だとも感じられた。

○振り返りの反省

・習い事などキャンプ以外の、実生活においてこれから頑張りたい事を記載する児童もいたため、視点がずれてしまったかもしれない。
・今回パッケージ型ユニットで３つの内容項目を扱ったが、振り返りを書く際に、１つの内容項目で考える子どももいれば、３つを統合して考える子どももいた。子どもが振り返りやすいように教師が視点を与えることが大切だと考える。

提案②

「自分自身の在り方・生き方を考える道徳教育ー人間（自分自身）の弱さを見つめてー」

稲垣　彩先生（川崎市立はるひ野小学校　教諭）

○人間の弱さを見つめることの意義

・自身の経験から、「人間の弱さ」を教育哲学、教育人間学などから見つめ直すことで、豊かに生きる力や、道徳教育にも生かしていけるのではないかと考えた。

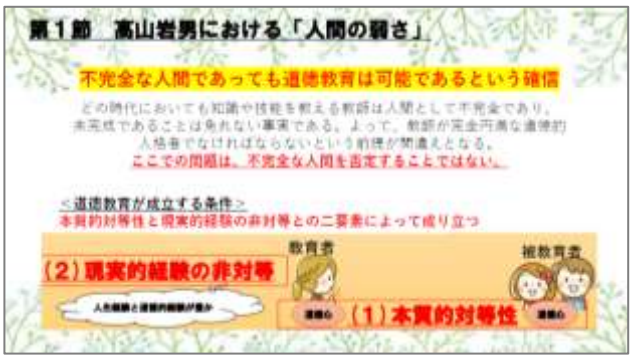
○高山岩男における「人間の弱さ」

人間は、誰もが不完全である。故に人間が人間に行う教育も不完全である。

未完成な人間自体を全否定すべきではない。

「教育者も子どもから教わるものである」という謙虚な姿勢が常に大切である。

「迷わないで判断すること」はいつでもできることではない。道徳的理性の自己分裂がある。



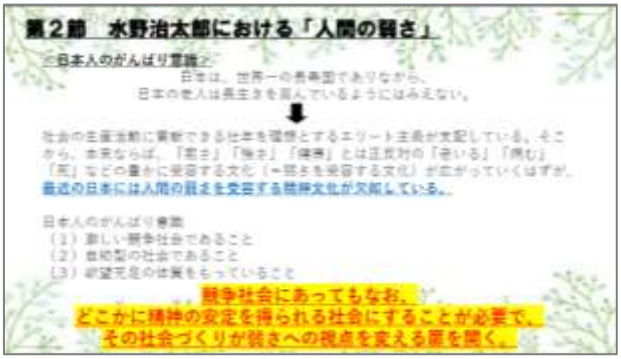
○水野治太郎における「人間の弱さ」

「弱さ」と「強さ」を対比して考えた時、社会が弱さを悪いものとして扱ってきた風潮がある。

「弱さ」が「強さ」になることもある。

競争社会の中における精神的安定を得られる社会にしていく必要ある。

弱さと向き合う事、つまり「レリジエンスを育てること」とも重なる。

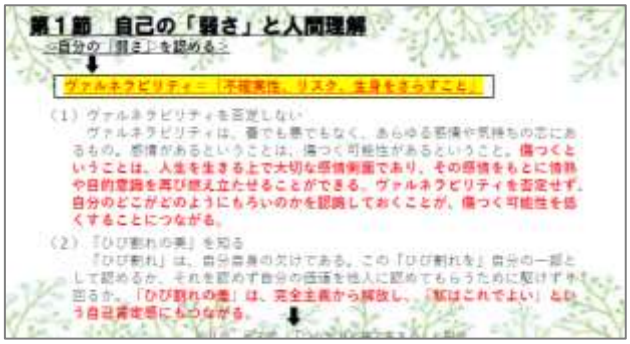


○自己の弱さと人間理解

アドラー心理学から学ぶ自分自身との向き合い方→自分自身が変わるための心理学である。

「自己肯定」ではなく「自己受容」であることが大切である。

ヴァネルラリビティー（自分ができない事や、人間として生きる時傷つくことなど）を否定せず受け止める。

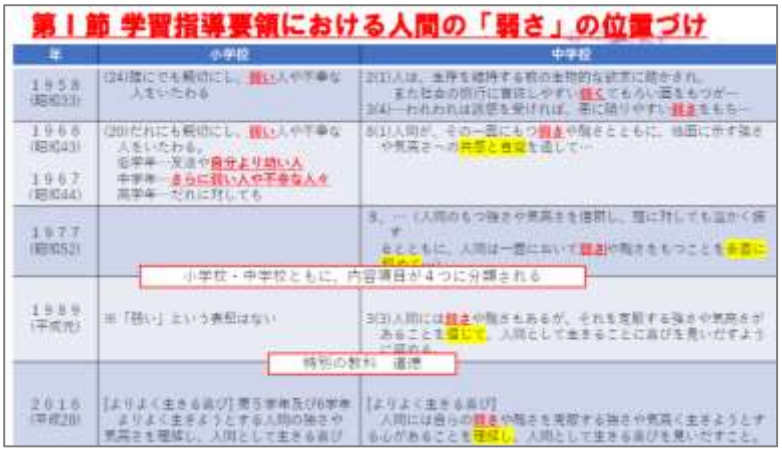


○道徳で扱う人間の弱さ

今までの学習指導要領を比べても、年代や校種によって「弱さ」の対象が変わっている。

他者の「弱さ」の認識から、次第に自分を含める人間の中にある弱さへと認識が変わりつつある。

弱さを乗り越えることで、強さや気高さに変わる。



第１節 学習指導要領における人間の「弱さ」の位置づけ

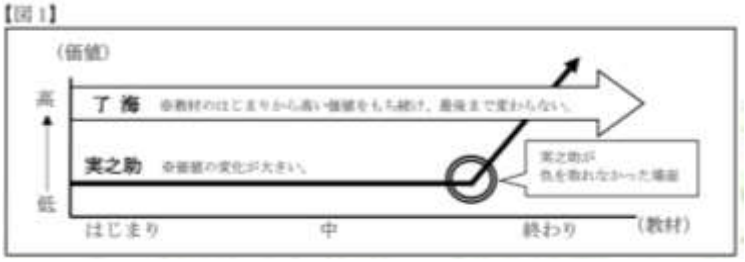
年	小学校	中学校
1958（昭和33）	(24)誰にでも親切にし、弱い人や不幸な人をいたわる	(2)(1)人は、生存を維持する数の生物的な欲求に動かされ、また社会の慣行に責任しやすい弱くてもろい面をもつが… (3)(4)…われわれは誘惑を受ければ、常に陥りやすい弱さをもち…
1966（昭和43） 1967（昭和44）	(20)だれにも親切にし、弱い人や不幸な人をいたわる。 低学年…友達や自分より幼い人 中学年…さらに弱い人や不幸な人々 高学年…だれに対しても	8(1)人間が、その一面にもつ弱さや陥さとともに、他面に示す強さや気高さへの共感と尊敬を通して…
1977（昭和52）		3. …（人間のもつ強さや気高さを信頼し、誰に対しても温かく接す るとともに、人間は一面において弱さや陥さをもつことを自覚に ……
	小学校・中学校ともに、内容項目が４つに分類される	
1989（平成元）	※「弱い」という表現はない	3(3)人間には弱さや陥さもあるが、それを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることに喜びを見いだすように…
	特別の教科　道徳	
2016（平成28）	[よりよく生きる喜び] 第5学年及び6学年 よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜び	[よりよく生きる喜び] 人間には自らの弱さや陥さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きる喜びを見いだすこと。

○人間の弱さを直接的に扱う道徳授業

教材①「青の洞門」Ｄよりよく生きる喜び（出典「みんなの道徳６年」学研教育みらい）

（あらすじ）了海は過去の自分の過ちを償うため、毎日危険な岩山の真ん中に人が通れる道をつくろうとする。一方、若い時に了海に自分の父親を殺され、２０年間その仇をとろうとしていた実之助は、洞門を一人でつくる了海の哀れな姿を見て洞門が完成するまで仇を打つことをやめようと考える。最後二人は協力して洞門を完成させる。

【図１】



・罪は償えないが、人のために行きたいという生き方に心が動かされた。

・実之助は了海にあってよかったのではないか。

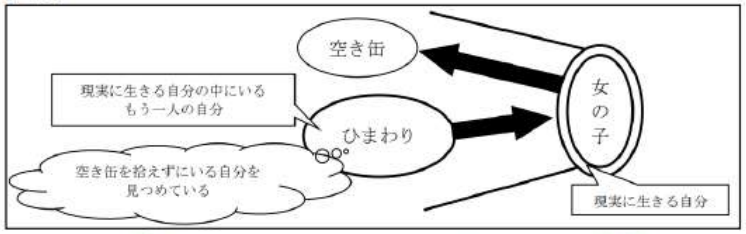
・実之助は了海の行いをみて、自分にはできないすごい事だと感じたのではないか。

　→弱さが強さや気高さに変わる。これを考えることが人間の生き方につながる。

教材②「雨上がり」Ａ善悪の判断、自律、自由と責任　（出典「みんなの道徳２年」学研教育みらい）

（あらすじ）公園に一本のひまわりがあり、その根元には空き缶が落ちている。主人公の女の子はその空き缶が落ちていることに気づいていたが、拾わずに知らんふりをしていた。毎日その道を通る度、嫌な気持ちになり４日目ついに空き缶を自分から拾う。

【図２】



・ひまわりは、空き缶を拾いたいが、拾えない弱い自分を見つめるもう一人の自分のメタファーとしてえがかれている。

・天気も主人公の心情を対比しており、雨が降りの空から、最後は虹がかかった空へと変化している。

・自身をメタ認知する視点が書かれた教材である。

☆お二人の先生方ありがとうございました。授業は教師が考え計画していくものであると同時に、子どもたちの心の中にある思いや、葛藤をきちんと授業の中に入れていくことが、とても大切だという事を学ばせていただきました。次回の学習会もよろしくお願いいたします。